

ホット・キーを使いこなそう（1）

ホット・キー（Windowsでいうショート・カット）を使いこなすと、回路図入力の作業性が向上し、シミュレーションを実行する全体の効率も向上するはずである。

とくに、回路図入力の際のホット・キーを使いこなすことは、「LTspice遣い」にとっては重要なポイントになる。

F1	Help	ヘルプ画面の呼び出し
F2	Place Component	配置する部品の選択ウィンドウ表示
F3	Draw Wire Mode	配線ツール
F4	Place Netname	信号線やノードにラベルを付ける
F5	Delete Mode	部品や配線の削除
F6	Duplicate Mode	部品や配線、またはその囲った領域を複製する
F7	Move Mode	部品や配線、またはその囲った領域を切り取って移動する
F8	Drag Mode	部品や配線、またはその囲った領域を切り取らずに移動する。 配線はラバー・バンドで部品に付いたまま移動する
F9	Undo	直前の操作をやり直す。メモリの容量の許す限り何回でも(デフォルトでは500回に設定)さかのぼることができる
Shift+F9	Redo	F9でやり直しをした後、また元に戻る
T	Place Comment Text	回路図中にコメントのテキストを書く
S	Place SPICE Directive	コマンドなど「SPICE Directive」文を書く
U	Unconn. Pin Marks	未接続のピンを表示(非表示)にトグルする

—  — **FAE : Michio Shibuya** — 2020/05/11・・・渋谷道雄 —

1

ホット・キーを使いこなそう（2）

A	Text Anchor Marks	テキスト(部品名、コメントなど)のアンカー・ポイントのマーク(丸印)の表示・非表示をトグルする
Ctrl+Z	Zoom Area	カーソルで囲った部分を拡大表示する
Ctrl+B	Zoom Back	少しずつズーム・アウトする
Space	Zoom to FIT	全体像が表示いっぱいになるように、ズーム・フィットする
G	Place Ground	GNDの配置
R	Place Resistor	抵抗の配置
C	Place Capacitor	コンデンサの配置
L	Place Inductor	コイルの配置
D	Place Diode	ダイオードの配置
Ctrl+G	Schematic Grid	グリッドの表示・非表示をトグルする
Ctrl+R	Rotate	1回ごとに時計回りに90度ずつ回転する
Ctrl+E	Mirror	1回ごとに左右を反転する。表示の文字は反転しない
Ctrl+H	Halt Simulation	実行中のシミュレーションを途中でやめる
Ctrl+L	SPICE Error Log	SPICE実行後のLogファイルを表示する
0	(zero)	これを実行するたびに、実行中のシミュレーションのグラフ表示位置をT=0として表示する(Reset T=0)


ホット・キーの設定は、回路図入力画面だけではなく、Symbol、Waveform、Netlistに対しても設定されている。以下に述べる「ホット・キーのカスタマイズ」を参考にして、他のペインのホット・キーも確認できる。

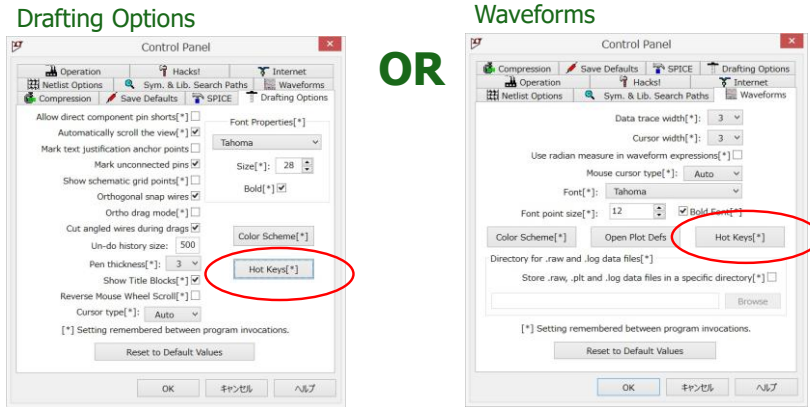
余談だが・・・LTspiceの作者のMike氏は、我々のマウス操作のスピードと比較すると比べものにならないくらい速い。筆者がMikeのそばで一緒に操作をしていると、こちらのホット・キーの操作よりも、彼のマウス操作の方が速い。

—  — **FAE : Michio Shibuya** —

2

ホット・キーのカスタマイズ（1）

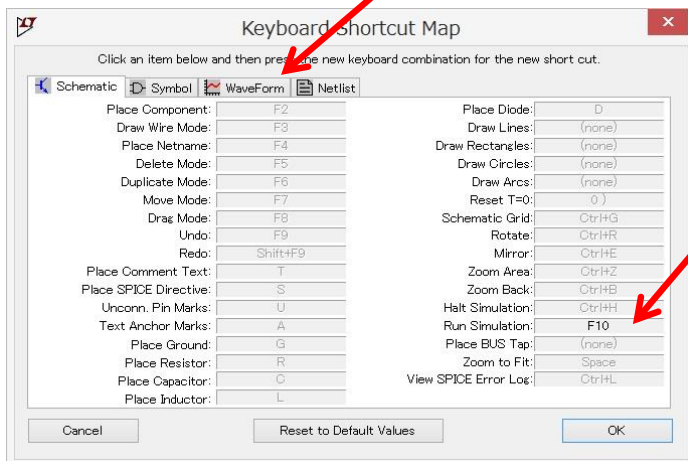
ホット・キーの編集窓を出すには、メニューバーのコントロールパネル「」から



・・・のタブを開き、その中の「Hot Keys(*)」をクリックする

ホット・キーのカスタマイズ（2）

すると、下図のような窓が開く。  編集するペインのタブをクリックする。



この一覧表にないコマンドを新たに追加することはできない。カスタマイズできるのは、これ等の一覧表にあるコマンドの「キーの割り当て」である。

たとえば、

Run Simulation


（デフォルトは（none）：なし・・・になっている）に「F10」を割り当てる場合、まず、

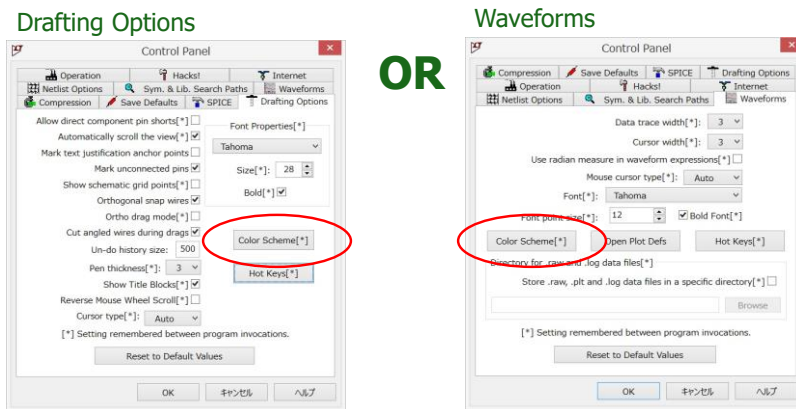
「Run Simulation」の枠にある

（none）のところをクリックし、文字の色が「グレー」から「黒」になったところで、設定したいキーをキーボード上で押す。

これで新たなキーがホット・キーとしてすぐに利用できる

カラー・スキームのカスタマイズ（1）

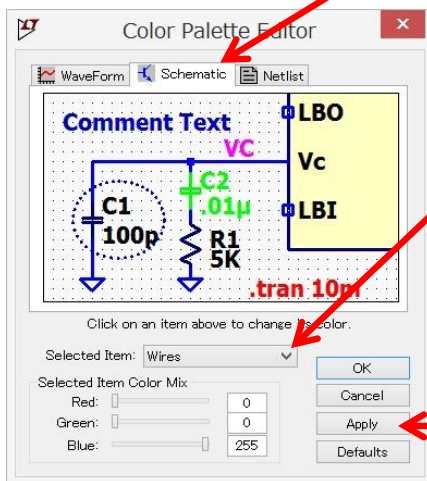
カラー・スキームの編集窓を出すには、メニューバーのコントロールパネル「」から



…のタブを開き、その中の「Color Scheme(*)」をクリックする

カラー・スキームのカスタマイズ（2）

すると、下図のような窓が開く。編集するペインのタブをクリックする。



Colorの設定ができるペインは「WaveForm」「Schematic」「Netlist」の3つである。これ等のタブごとに、設定できるアイテムが決まっており、それらは、例題画面が出ている中のアイテムをクリックすることでも選択できるが、その下にある「Selected Item:」の選択肢の中から1つ選ぶことができる。

色の設定は、その下にあるRed、Green、Blueの sliders をマウスでドラッグするか、その右の数値窓に0~255の数値を入力することで、RGBの組み合わせにより色を決める。
(RGB=0,0,0…黒、RGB=255,255,255…白、である)
設定した後、必ず「Apply」のボタンを押してから「OK」ボタンを押す。さもないと、設定は元の状態のまま保存される。